東京八王子プロバスクラブ
創立１９９５.１０.１８

プロバスだより

第151号

編集･発行･情報委員会
発行日２００８.６.１２

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

２００７.７～２００８.６ テーマ『ふるさとへの恩返し、豊かな知識と経験を』

第 151 回例会

日時：平成 20 年 5 月 8 日（木）8 時～9 時
　　野外サロン車中

出席者：43 名　出席率６５％
　　(会員総数６９名、うち休会３名)

１．淺川例会委員長の司会で開会

２．矢島副会長挨拶

今日は天気にも恵まれまして朝早くから大勢の会員に参加いただき有難うございました。今日は野外サロンで、宮崎会長は別のバスに乗っているので、代わりに私からご挨拶申し上げます。

サロンは２月２８日に開講しましたが、あっという間に最後の野外サロンがやってまいりました。その間、担当の地域奉仕委員、話し手の会員を始めとして、会場整理などこまごまとした役割をしていただいた会員など、多くの方々から協力とご支援を頂いたこと、改めて御礼申し上げます。

今日お訪ねする足利市ですが、きょう貰った資料によりますと、「歴史と文化が香る町」が売りだそうです。似たような文句だなと思ったら、八王子は同じような都市像を掲げております。平成元年に基本構想･基本計画ということで八王子の都市像を定めまして、その中のひとつに「心触れ合う文化の香る町」があり、足利と八王子は文化と歴史で似たような所があるのかなと思います。それだけではありませんで、今日いただいた資料によると、400 年続いた足利学校の 32 人の校長の中に、八王子から二人の校長が出ていることが分かり、吃驚しました。武州の田舎町、八王子から二人も校長が出たことは大変な名誉だと思っています。実は、私の現職中に「藤九朗屋敷と上恩方の歴史」という本を、楢本さんが、確か 59 年だったと思いますが、お出しになりました。この山室藤九朗は第１８代の校長先生です。著者の楢本さんとは、一時職場が一緒であった縁で、本を頂いたのを思い出し、本棚より探し、改めて読んでみました。然し、この武州からどういうきっかけで、当時日本で最大の、今で言う総合大学である足利学校に入学することになったのか、興味があったのですが、これには触れておりませんでした。後ほど、荒会員から詳しい話があるので楽しみにしております。いずれにしても、八王子と似た町、足利を散策し、興味あるお話をお聞きいただきながら、今日一日をゆっくりとお楽しみいただきたいと思います。

３．幹事報告　土井俊雄副幹事

１）　会員動向

前月、石井廣治（ひろじ）会員の入会で、会員６９名、休会３名で４月と変らず。

２）　対外活動ほか

①　立川会員が、大阪での全日本プロバス役員会に５月末出席予定。

②　５月１８日市民健康の日、副会長以下１２名の会員が、富士森のグランドにて受付け、案内等に参加します。

③　５月１６日は、会長以下３名が、神奈川プロバス連絡協議会の第二回親睦交流会に参加予定。

④　８月２８日に、ドイツのザクセン･シンフォニック･オーケストラ・ケムニッツの団員他、約４０名の方々を、エルシィにてお茶のサー

ビスをする依頼状が、日独交流演奏会実行委員会の村内通昌委員長より会長宛に来ており、先日の理事会にて、プロバスクラブとしてお受けすることを決定。来期のことであるが、お茶同好会が主体で行います。

⑤　青森一泊研修旅行ご案内の件

既に４月２５日付メール及びＦＡＸで連絡済。７月１１日(金)～１２(土)で研修旅行を行う。来年度のことではあるが、４月２４日の臨時理事会で決定。研修委員会と歴史の会との合同で行います。荒委員長は本件に限り、来年度も澤渡会員(歴史の会)と共に、推進します。申込み期限が本日になっているので、宜しくお願いします。

⑥　池田ときえ会員の絵手紙が“患者の心を癒す”として南多摩病院 に展示されており、病院長より感謝状を受領しました。

３）その他

①　都城中央プロバスクラブより、プロバスソング斉唱のお礼として新茶が送られてきた。来期になるが、例会にて皆様に賞味して頂く予定。

②　今日の野外学習サロンには８４名(プロバス４３名、一般４１名)の方が参加。サロンを満喫できるよう気配りをお願いします。

③　野口会員よりお礼状：(要旨) 入院中のお見舞い有難うございます、４月１０日退院、自宅にて通院で療養中とのこと。

４．　各委員会報告

１）　例会委員会　浅川委員長

６月１２日の例会、定期総会、懇親会(エルシィ)スケジュール

例会：１６：００～１７：００

総会：１７：００～１７：５０

懇親会：１８：００～２０：００

(懇親会費４千円は５月２２日の閉講式で徴収)

２）　情報委員会　八木委員長

「プロバスだより」が節目の１５０号になりましたので、カラー印刷にいたしました。

３）　会員委員会　杉山委員長は欠席

４）　研修委員会　荒委員長

幹事報告にもあったように、青森一泊旅行が急に決まったので、連絡が書類になってしまったことをご了承下さい。これは歴史の会が企画したものをプロバスの企画として、できるだけ大勢の方に参加してもらいたいとの趣旨で、共同開催になりました。実施時期が次年度だが、今期の人が担当します。

目的地は縄文時代最大の遺跡「三内丸山遺跡」、六ヶ所村原子燃料サイクル施設見学(純粋な研修目的)。本年３月に誕生した六ヶ所村プロバスクラブとの交流と十和田湖・八甲田山ほか観光。

５）　地域奉仕委員会　多村副委員長

５月２２日には閉講式及びさよならパーティがありますが、参加申し込みがしてない人は早急に申し込むようにお願い致します。

特別講話は、指揮者 角岳史先生の「日本にオペラがやってきた日！」。ゲストにソプラノ歌手をお迎えします。

さよならパーティは立川会員が、ハニカミおじん合唱団、フラダンス、畑野先生のピアノ演奏、下田会員のバナナの叩き売り、など盛りだくさんの趣向を凝らしているので、最後に大いに盛り上がるでしょう。

５．同好会報告

１）らくらくＩＴ塾　矢崎会員

メールでご案内してあるように、６月のＩＴ塾では武田会員が下 記のテーマで講義します。

①ファイルの検索方法と便利なツール

②ブログの話

６月以降には、矢崎会員からエクセルの入門編、基礎編の講義があります。

２）囲碁クラブ　下山会員

既にお知らせ済みですが、５月１６日(金)に、恒例の一日囲碁大会（９：００～１７：００）を台町市民センターで開催します。

３）歴史の会　澤渡会員

７月の旅行は「本州最北の地、青森で日本の最先端技術と最古の歴史･文化に触れよう」というテーマで行います。現在２７名が参加を表明。

三内丸山遺跡は５～６千年前の縄文人の生活ぶりを見ます。

伝統文化では、ねぶた、津軽三味線にも触れたい。観光は十和田湖と八甲田の自然。宿泊は温泉。出発日は早朝にマイクロバスで揃って羽田まで。最終スケジュールと費用￥60,000(概算)は６月１２日の例会で集金いたします。

以上で例会は終了しました。

野外サロン

「歴史と文化の香る町、足利名所めぐり」

日時：５月８日(木)　７：４５～１８：００

スケジュール：

ＪＲ八王子駅南口→圏央道→関越道→北関東道→大田ＩＣ→**栗田美術館**→レストラン大津栄(おおつえ)にて昼食→**史跡足利学校** → **鑁阿寺**(ばんなじ) →ＪＲ八王子駅南口

参加者総数：８４名(一般４１名、プロバス４３名)が２台のバスに分乗

1.　バス車中

訪問先の栗田美術館、足利学校及び鑁阿寺の資料が配布され、更に栗田美術館のビデオが上映された。

足利学校と鑁阿寺については、一般参加者には宮崎会長と、会員には荒会員による詳細な解説が行われた。

2.　栗田美術館

創立者故栗田英男(平成８年没)の収集による伊万里、鍋島を館蔵する世界最大の陶磁美術館である。足利市の東郊外にあり、三万坪の自然の景勝を生かし、山野草を中心とした作庭の中に、本館、歴史館、無名陶工祈念聖堂、世界陶磁館などがある。建築物は極めて格調高く、個性的で魅力ある殿堂である。美術館の極めて大きな特色は、江戸時代（1603~1867）肥前鍋島藩で生産された伊万里、鍋島のみを展示し、これ以外の作品に対しては一顧だにしない信念と、一貫した思想の美術館であることである。伊万里は日本で最初に作られた磁器で、オランダ東インド会社により西欧に輸出され、大いにもてはやされ、その数三百万個といわれる。

3.　足利学校

敷地：38,900 ㎡(11,800 坪)；建物：中門、孔子廟、鎮守(神社)、方丈(教室)、書院、御文庫、隠寮、土蔵など;庭園、番所(守衛)、役人屋敷、教師の住居、学生寮。七代校長九華和尚の時は学業がもっとも盛んで、生徒３千人とある。

創設と変遷：室町時代から江戸時代にかけて、関東にあって有名かつ最高学府。創設には諸説あり。

①**奈良時代**：下野国府野(しもつけこうの)(足利)の地内に、大宝律令（701）により郡司の子弟を対象に官吏養成を目的に**国学**(学校)が創設された。国府野(こうの)遺跡の出土瓦から推定。万葉集編纂の時代(759 年前後)に

は国学を創設する文化的環境は整っていたと考えられる。**国学**とは小規模の大学で儒教、数学、などを教え、官吏の養成所。13~17 才。卒業までに 9 年。卒業すると官吏に登用される。

②**平安時代初期**：小野 篁（たかむら）(学者)が陸奥守になり下向の時に建てたという説。篁は養老律令の注釈書「令義解（りょうのぎげ）」（834）の編集委員。足利学校孔子廟内に像がある。篁の 7 代目子孫小野孝泰が武蔵守として下向し**八王子**周辺を開発、後に小野義孝が横山姓を名乗り、武士集団横山党の党祖となる。

③**鎌倉時代**：足利義兼（よしかね）の記録に、出家して鑁阿（ばんあ）と号し、足利に鑁阿寺（ばんなじ）と学校を有しているとある。鑁阿（ばんあ）とは梵語で大日如来を意味する。義兼は建久 6 年（1195）46 歳で出家し足利に隠棲した。この居館跡に建てた堀内御堂が後に鑁阿寺という足利氏の氏寺となる。足利学校は地方郡司層の没落の中で 10 世紀頃から衰え荒廃していたが義兼は一族の子弟教育、修養の場として 12 世紀末頃に復興したと推定されている。

④**室町時代**：上杉憲実（のりざね）(越後上杉房方の三男、関東管領)が再興。永享 4 年（1432） 4 月以後、足利荘の管理に当たったようで、鎌倉円覚寺の禅僧快元を学校長として招き足利学校を再興した。その後上杉氏は衰退。戦国乱世の中、学校は火災にあい大半を消失するなど苦難をこうむる。北条氏政は永禄 3 年(1560)に「宋刊本文選（もんぜん）」(国宝)を寄進するなど支援を行ったが、やがて北条氏は滅亡。学校の所領は没収され、豊臣秀次により学校の典籍什器類が京都に持ち去られた。(当時八王子城の城主は北条氏照で氏政の弟)。

⑤**江戸時代**：豊臣秀次自害の後、徳川家康の斡旋で典籍什器類は返還され、足利学校領、高百石を下付された。幕府の寺社奉行支配下に置かれ、校長は幕府の任命制となった。従って、学問所としての性格を薄め、徳川将軍家を護持する寺社的な性格を帯びるようになり、幕末まで存続した。

歴代校長(庠主（しょうしゅ）)

4 百年間 23 代，明治元年まで続いた。特記すべきは、23 人中、2 人の校長が八王子から出たことである。

●再興初代校長　快元和尚：鎌倉円覚寺の禅僧。足利学校を再興し以後 4 百年の基礎を築いた。

●再興 4 代校長　九天和尚：1485 年頃足利学校に入校。その後、明国に亘り 12 年間医学を学び、帰国後、朱子医学を唱える。

●再興 7 代校長　九華和尚：学業最も盛んで、生徒 3,000 人といわれる。

●天文 18 年(1549)、**フランシスコ・ザビエル**の通信文に「京都には有名な一の大学（ユニバーシチ）あり，尚また五つの主要な学林（カレーヂ）と二百余の僧院あり。‥‥**坂東の学院あり、日本国中最も大にして有名なり**」の記述あり。

●16 世紀後半の日本に触れた、**フロイス**の「日本史」に、日本の諸大学は欧州の諸大学とは異なる。学生の最多数は僧侶か僧侶になろうとして学んでいる。従って、諸宗派の教理を主に学び、若干、天文学、医学がある。なお、日本に総合分科を有する唯一の大学がある。それは坂東地方の足利にある、と記載している。

●再興 16 代校長　月江和尚(享保~宝暦年間)：諱は元澄、淳子と号す。武蔵八王子の人。1728 年八代将軍吉宗が日光参廟の帰途、使いが派遣され、蔵書が検められ、学校よりは蔵書目録が献じられた。百両の下賜金を得て、学舎を修理する。雷火のため書院、方丈、包厨等消失したが、聖廟, 文庫、三門は免れた。

●再興 18 代校長　青郊和尚：天明 7 年（1787）43 才で就任、在任 18 年。諱は元牧、成子と号す。俗姓は**山室藤九朗、武蔵八王子森久保の人**（1744～1810）。「周易啓蒙翼傳」等を寄贈。11 代将軍家斉の時、寛政初年、幕府が異学を抑え、しきりに朱子学を鼓吹、足利学校も一時内部を革新し、従来萎縮した学校を振興せんと務める。寛政 5 年（1798）には学校を「自習館」と称し，学則を立て、校規を

制し、釈奠の式(聖廟祭祀)を改定し、学寮の職掌を規定するなど、教育の面目を一新した。足利学校の記録 30~40 巻まで自ら編集。学校敷地内にある歴代校長の墓の中に青郊和尚大禅師の墓碑あり。山室家は上恩方龍泉寺(鎌倉期の鉄仏聖観音像あり、入口に青郊先生顕彰碑)の下にあった。(陣場高原行きバス停、関場から醍醐川を１キロ上流の森久保)

４．鑁阿寺（ばんなじ）

足利氏の氏寺。足利氏 2 代目吉兼が建久 7 年（1196）自らの館内に持仏堂を建て本尊として大日如来を祀ったのが始まりである。敷地内には堂塔が建立され、周辺に供僧十二坊をおき、歴代の当主によって寺院規則や数々の年中行事が定められ整備が進み、足利氏の本貫地である足利荘の核としての役割を担った。周囲に土塁と濠をめぐらした寺域は、ほぼ正方形で約 4 万平米あり、鎌倉時代の武士の屋敷(平城)の面影を今に伝えている。なお、この寺にあるべき大日如来像が、いつの日かアメリカに流出し、現地のオークションで日本に買い戻されたと報道され、話題となった。

（例会・野外サロン記録　矢崎安弘　荒　正勝）

投稿　**雑感プロバス塵劫記（じんこうき）**

会員　下山　邦夫

塵劫記は江戸時代初期(寛永、１６２７頃)に吉田光由と言う人が著した算術の教科書で、江戸時代を通して大ヒットした。１説によれば通算２５０万部に達したと言うほどである。寛永年間だけで異版が１０種以上在るそうだ。武田会員専門の著作権の無い時代で木版の時代だったから、本を写して海賊版を作るのは易しく、数多く出回った、３百４百種と言う。著者吉田光由は対策として内容をどんどん工夫して改定したらしい。遂にはじんこうと言えば数学書そのものをさす、又数学そのものをさすようになり、いろんな著者が改訂版を重ねるたびに遂には明治塵劫記まで至る。寺子屋やそろばん塾、又商店の小僧への教育などに用いられたのであろう。またじんこうきと言えば教科書乃至はガイドブックを意味していて、狂歌塵劫記、大通人人好記、などなどと呼ぶ物も多かったそうだ。プロバス塵劫記が在ったら何を書くことになるだろうか。

岩波寛永２０年版で内容を見ると格調の高い**「算の要たるは、国家を治め、百姓を導き、軍をなし、云々」**と算学は国家の基礎として必須教育課目であるとする序文があって、今日の教育の荒廃を思うとき、昔のエリート達の自覚、を感じないわけにはいかない。

寛永版によれば巻１は１９章まであって、第１章大数の呼び方　一、十、百、千、万、億、兆、京、垓・・・不可思議、無量大数 10 の６６乗まで、第２章小数は両、文、分、厘、耗、糸・・・挨まで１０のマイナス１１乗まで決めてある。この次に諸々の度量衡の呼び方、升、合とか尺、間とか、反とか、貫とか。又金、銀、銅などの比重つまり換算のための基準を示してある。それから九九､そろばんの割声と続き､そろばんの掛け算、割り算となる。ついで、米の売り買い、相場と量と利潤との関係の計算法など、米の俵の積載の計算、など売り買いに関する基礎があって、次に両替の各計算などが在って巻１が終わる。巻２では応用例で、検地、堀や川の普請など、巻３では、進んで開平、開立まである。そろばん、俵など絵入りで馴染みやすくヒットする由縁が伺える。

吉田光由という人は、角倉了以の縁戚で、角倉が木津川開索、高瀬川開索など今で言うゼネコンと総合商社を兼ねたような人だから、その設計計算に一役買っていたのかもしれない。肥後細川藩に招かれ勤めたと言う。

和算はその後発達し有名な関孝和が出て頂点に達する。例えば円周率は１６７６年にニュートンが１４桁まで求めているが、関は１７１２年に１１桁まで、その弟子建部賢弘は１７２２年に４２桁まで求めている。円周率を求めるのは無限級数の収斂を知る事であり、微分積分の概念に発展し解析学に結びついていくべきであるが、和算はそうならなかった。やはり当時の日本人の哲学的曖昧さ、実用になればよい、結果よければいい、

といった甘さ、何故なぜを深く追求しない民族性の故かと考えてしまう。その後和算は実用学から、だんだん趣味の分野に行ってしまう。各地にいる算学者は面白い幾何学的図形問題を解いて、神社に算額を掲げるなどに熱中した。塾の弟子を集める宣伝だったろう。八王子にも片倉城址にある住吉神社には川幡元右衛門と言う人とその弟子の額がある。完全に色あせて何も読めないが、書かれていた内容の記録はある、１８５１年ごろの物らしい。谷保天神、大国魂神社などにも在った。

さて我がプロバスクラブも年々その活動は充実してきているが、その存在についてやはり深く考えてみないと甘さに流されてしまう。どんな方向に発展さすべきか。後世の人に知られて意義を見出してもらえるものになりたいですね。

生涯学習サロンに参加して

投稿

会員　竹内　賢治

今年１月八王子プロパスクラブに入会した竹内賢治です。開講から多くのテーマと会員による講師の学習に感謝、感謝です。

第２回 B、“この道はいつかきた道”映像で八王子市の歴史を見て、私のふるさと「福井」を思い浮かべました。昭和２０年８月７日の戦災（戦後の様子ですが）の悲惨さをみて、復興に努力していた時の事がまぶたに浮かびました。私の家族は、焼け跡に漸く建てた２階建ての家を、２３年の福井震災で再び失ったのです。復興に汗をかいた事が今更のように思い出されました。

生まれ故郷の福井に２０年、第２のふるさと金沢に通算４５年、単身赴任も含めて大阪に１０年暮らしました。今後第３のふるさとは八王子になるでしょう。

３７年勤めた伊藤忠商事では、北陸３県及び新潟の織物産地に生地製織を発注する業務を主としていました。蚕糸、絹織物を中心に発展した八王子と、合成繊維産業が主流の北陸を重ねてみることには無理があるかもしれませんが、歴史のある八王子と北陸（越前・加賀・越後）には、何か似た文化があるように感じます。時間をかけて勉強することにしたいと思っています。

八王子市のバス停留所に「織物組合」の表示を見つけました。かつて隆盛を極めた織物業界の面影が感じられます。北陸・新潟でも隆盛時には県知事の首をも替えられる力があったものですが、今はその面影は在りません。福井・石川県では一時の３分の１程度ではありますが、衣料から土木資材・工業資材用に用途を変えて、いまも産地を構成しています。

八王子市役所に地場産品として、また織物組合隣建物でネクタイの展示、販売がなされていますが、何時かその製織を見せて頂きたいものです。

幕末から明治にかけて賑わった「絹の道」の後が残っているとのこと。生糸貿易の中継地として発展した土地で八王子近郊、埼玉、群馬、長野から集荷され絹の道を経て横浜に運ばれたと聞きます。京王バス停に「絹の道入口」が在り、かつての面影が残っているのでしょう。自分の経歴と重ねて歴史探訪の楽しみができました。

八王子の文化と金沢の文化をお互いに比較して見るのもまた一興ではないでしょうか。

首都圏の観光地として知られる高尾山や寺院・侍文化を持つ八王子と、観光産業の一翼を担う加賀百万石の兼六園・家老屋敷・芸妓街等の対比がおもしろく感じられます。

機会があれば、加賀百万石に残る文化財・伝統工芸・（兼六園・九谷焼・輪島漆器・加賀友禅・金箔等）侍文化の謡（宝生流）また茶道・華道などの一端を紹介させて頂きたいと思います。

訃報：
山崎修司会員（幹事）のご令室 登美恵様が５月１９日ご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記：野外サロンも成功裏に終了し、滞りなくサロン閉講式を迎えました。地域奉仕委員会の皆様お疲れ様でした。サロンの記録冊子の編纂は大詰めを迎えています。会員皆様のご協力有難うございました。

東京八王子プロバスクラブ
創立１９９５.10.18

プロバスだより

第152号

編集･発行･情報委員会
発行日２００８.7.10

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

２００７.７～２００８.６ テーマ『ふるさとへの恩返し、豊かな知識と経験を』

第１52回例会

日時:平成20年6月12日(木)16：00～17:10

場所：八王子エルシィ

出席者：６２名　欠席６名　出席率９１％

（会員総数７１名　うち休会３名）

１．浅川例会委員長の司会で定時に開会

２．宮崎会長挨拶

時の経つのは早いもので､平成19年度の例会も本日で最後となりました。この一年、会員の皆様にはいろいろとお世話になりました。皆様のご厚情に心より御礼申し上げます。また本日は、この後総会がありますのでよろしくお願いいたします。本日は八王子南ロータリークラブの広瀬前会長、平野次期会長にご出席をいただいております。

過日の生涯学習サロンのさよならパーテーは大きな盛り上がりをもって終りましたが、その中で、いろいろな「輪」がでてきました。古くから「和を以って貴しとすべし」という言葉がありますが、和の精神は誠に大切なことでありまして、私たちのプロバスクラブが今日のように､すばらしい活動が続けられておりますのは、ひとえに会員各位が和を大切にして会を正しい軌道に乗せていただいていることにその基があると存じます。

本年度は今月で終りますが、来月は新しいメンバーの理事の皆さんにより新年度を迎えます。今後の東京八王子プロバスクラブの発展と会員各位のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

3.ご来賓挨拶

東京八王子南ロータリークラブ

前会長　広瀬武彦様

次期会長　平野一男様

清水会長が他の会議出席のため本日は二人して出席させていただき誠にありがとうございます。東京八王子南ロータリークラブでは、次年度は平野が会長を務めますが、従来同様、東京八王子プロバスクラブとの連携を密にして努めてまいりたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

4.新入会員紹介　　久野久夫氏　荻島靖久氏

紹介者　杉山友一会員

久野久夫さんは、昭和18年神奈川県生まれ、今年5月より八王子市明神町に住んでいます。大学卒業後 12 年間の製薬会社勤務を経て昭和54年，秦野市に東京女子医大系病院を立ち上げ、その後平成2年より現在の医療法人財団中山会の八王子消化器病院理事事務長の任にあります。まもなく定年を迎えられますが、その経営手腕を買われて、引き続き現職を続けられることとなっています。

荻島靖久さんは昭和 16 年生まれの八王子生まれ、育ちの土地っ子です。昭和39年に八王子市役所に入り、清掃、建設、税務などの部署を歴任後､平成11年｢夕やけ小やけふれあいの里｣園長に就任し、定年後も経営手腕を請われて、八王子観光協会に移られ､引き続き園長として、八王子発全国ブランドの施設運営に活躍しておられます。

お二方とも明るい、エネルギッシュな方々なので、当クラブにおいてご活躍いただけるものと存じます。

以上紹介があり会長よりクラブのバッジの贈

呈があった。

新会員　久野氏：ただいまのご紹介の中にありました私どもの病院で行っているサロンコンサートについて若干説明させていただきます。病院の１階ロビーを使ってのクラシック音楽によるサロンコンサートは、6年前に始めて、すでに16回を数えます。当代一流の方々がボランティアで出演してくださり、患者、ご家族、地域の方に楽しみにしていただいていることが職員全員の大きな励みになっています。

新会員　荻島氏：「夕やけ小やけ　ふれあいの里」に自然発生の「蛍」が飛び交う話は本当です。天気が良く、湿度の高い夕方からよく見られます。「ふれあいの里」は陣馬山、高尾山登山への大事な通過点で、たくさんの方が立ち寄られますし、施設内も、恩方出身で童謡作詩家の中村雨紅の資料や富良野の撮影で名高い前田真三の作品の展示ホールなど皆さんに楽しんでいただけますので、お出でをお待ちしています。

5.幹事報告　（山崎幹事）

(1)会員動向　本日入会の２名の会員を加え７１名の会員となり、うち休会者が３名。

(2) 新名簿配布

本日間に合わなかったため７月例会時に配布。

(3)対外活動

・5 月 16 日神奈川プロバスクラブ連絡協議会の第 2 回親睦交流会に宮崎会長、山崎幹事、立川会員が参加。

・第８回健康フェスタに１１名が参加し、受付、案内の役割を務めた。全体の参加者は、昨年を２００名上回る６７００名。

・5 月 31 日，全日本プロバス協議会役員会に立川会員が出席。

・5 月 22 日パスト会長会議を開き、クラブ運営などに関する意見を伺った。

6.各委員会報告

(1)例会委員会　浅川委員長

・本日の出席者は６２名、９１%の出席率。

・7 月例会は 7 月 10 日 12 時 30 分開会。クールビズ解禁。

・　次回、半期の会費 18,000 円と活動準備資金 2,000 円あわせて 20,000 円をご用意願いたい。

(2)情報委員会　八木委員長

・151 号の「プロバスだより」は、手違いで 6 ページのところ 4 ページで配布してしまつた。次回例会時に再配布する。

(3) 会員委員会　杉山委員長

会員委員会は未来志向型クラブを目指して、ふさわしい会員確保に努めてきた結果、今年度は入会者６名、退会者０名で、７１名の会員を擁することとなった。ちなみに会員の平均年齢は 72.43 歳で、昨年に比べ１歳の増、うち女性会員は９名で、その比率増加は今後の課題。

(4) 研修委員会　荒委員長

青森への一泊研修（原子燃料サイクル施設および三内丸山縄文古墳の視察等）については諸準備が進み、現在 24 名の会員が参加予定。歴史の会と共同で計画してきたので、7 月 11 日～12 日まで手伝わせていただく。次回例会で最終連絡をする。

(5) 地域奉仕委員会　阿部委員長

・第 12 回生涯学習サロンについては、会員各位のご支援を得て成功裡に終えることができた。心より感謝。来年度以降のさらなる充実を期待。

・生涯学習サロンの講座の中にあった「裁判員制度」に関連して東京地方検察庁八王子支部 支部長検事からの「公判モニター制への協力依頼」依頼があった。モニターになることについての希望申し込みについて**杉山会員**より説明があつた。

７．報告その他

(1) ゴルフ同好会　小林会員

・5 月 29 日の第 15 回ゴルフコンペは大雨により中止。次回は 9 月 12 日（金)に GMG 八王子ゴルフ場で開催予定。

(2)　楽々ＩＴ塾　武田会員

・毎月第一第三の月曜日に東淺川福祉センターで IT 塾を午前午後に分けて自由時間で開催している。人により習得レベルに差異があるので、個人対応を旨として進めている。今後はエクセルの扱い方、メールの方法などに取り組む予定。

・IT 対応については、当クラブのホームページを設けてあるので、各位の情報の投稿を期待。

（３）写真同好会　下山会員

富士山麓の百合を対象とした撮影会を 7 月 20 日前後に実施の予定。詳しい案内は来月の例会時に。

（４）お茶の会　中野会員

お茶の会は毎月第二火曜日に開催しているが、7 月は定例どおり 8 日に開催し、8 月は休会。

（５）全日本プロバスほかの報告　立川会員

・健康フェスタ０８に多大の協力をいただいたことを八王子健康づくり推進協議会会長の市長に変わり副会長の立場からお礼。(塩澤会員は幹事長)

・全日本プロバスクラブ協議会の役員会(5 日)で、11 月１８日に全日本プロバス協議会総会開催が決定した。(その際中村現会長退任し京都プロバスの金森会長が後任に就くほか規約の大幅改定も)

・11 月 27 日関東ブロックの交流会が開催されるが、当クラブからも多数参加したいので、ご協力宜しくお願いします。

・チラシのとおり「日独交流演奏会」が開催されるが、次回改めてご案内する。

８．閉会挨拶　矢島副会長

宮崎会長の挨拶にもありましたとおり 1 年が経つのは誠に早く、副会長としての閉会の挨拶も最後となりました。1 年間のうちにはいろいろとございましたが、会員の皆様のご支援ご協力により、不慣れではありましたが，無事自らの務めを終えることができました。厚く感謝申し上げます。

第１２回定時総会

日時: 平成 20 年 6 月 12 日 17:10～17:50

場所：エルシィ

会員総数:７１名　　本日の出席者数６２名

1. 開会

司会の山崎幹事が第 12 回定時総会の開会を宣言し、総会成立を報告した。

2. 議長選出

司会から、議長は恒例により宮崎会長を選出したい旨の提案があり、全員異議なく承認され、宮崎会長が議長席に就いた。

3. 議長挨拶

恒例により私が議長を務めさせていただきます。本年度一年間の当プロバスクラブの活動を省みますと、充実した生涯学習サロンの運営、関東ブロック連絡協議会の主催，多摩プロバスとの交流など幅広い活動を続けてこられました。これもひとえに皆様方会員各位のご協力、ご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。議事の円滑な進行をよろしく。

4. 書記ならびに議事録署名人の選出

議長から議事に入る前に書記に吉田信夫会員、議事録署名人に永井昌平会員、阿部幸子会員を選任したい旨の提案があり全員異議なく承認された。

5. 議　事

第 1 号議案　　事業報告の件

山崎幹事より、あらかじめ配布された資料に基づき、「ふるさとへの恩返し、豊かな知識と経験を」のテーマで活動してきた、2007 年 7 月 1 日から 2008 年 6 月 30 日にいたる事業報告の説明があった。特徴的な事項について次のとおり説明。

①会員動向

資料中、休会２名とあるのを３名と改める。

②例　会

野外研修に「寄席をきく」番組を加えたことと、新年例会で、河津光紀氏の特別講談があつたことは新機軸。

③生涯学習サロン

・「学ぼう」「語ろう」「広げよう」のテーマのもとに実施したが、成功裡に終了することができた。

・参加者は、会員６３名、一般４７名だった。延べでは会員３５２名、一般３７１名、計７２３名で昨年よりやや減。

④対外活動

・11 月 29 日の第１回プロバス関東ブロック交流会を当クラブがホストとなって開催。好評で、所期の成果を達成したので、来年度も継続する。（会員１３名が参加）

⑤同好会活動報告

全体として活発な活動がなされたが、今年度は、プロバス楽々IT 塾が発足し、３４名が参加して順調なスタートを切れたことが特徴である。

第２号議案　　次年度役員選出の件

議長より、会則第９条の規定により、理事９名、会計監査２名の選出を行いたいとの提案があり、立候補者はなく、配布の「2008～2009 年度役員人事案」の承認を求めたところ、全員異議なく、承認された。

次に、運営細則に基づく新理事の分掌が、矢島新会長より次のとおり発表された。

理事	会　長	矢島　一雄
理事	副会長	下山　邦夫
理事	幹　事	矢崎　安弘
理事	副幹事	有泉　裕子
理事	例会委員長	多村　繁樹
理事	情報委員長	長谷川貴訓
理事	会員委員長	下田　泰造
理事	研修委員長	橋本　鋼二
理事	地域奉仕委員長	澤渡　　進
会計監査		平　　文夫
会計監査		広瀬　智子

5. 議長解任

議案審議がすべて終了したので、議長の職務が解かれた。

6. 旧役員退任挨拶

宮崎前会長が、各理事個々の支援、活動に謝意を述べながら、１年を回顧し、新年度のクラブの活動、さらなる充実について期待する旨の挨拶があった。

7. 新年度会長挨拶、並びに会長委嘱人事の件

矢島新年度会長から、新役員が一体となって、地域奉仕を中心に、積極的なクラブ運営を進めていくので、会員全員の支援をお願いしたい旨の挨拶があつた。

次いで会長委嘱による人事の発表があった。

（会長委嘱による人事）

全日本プロバス協議会副会長（地区担当役員）
立川 冨美代
補佐　　下山　邦夫
補佐　　山崎　修司
事務局長　岡田　　尚
ＩＴ(ホームページ)担当　武田洋一郎

懇親会（18:00～20:00）

下山前例会副委員長の司会により、宮崎前会長の挨拶に続き、来賓の東京八王子南ロータリークラブの広瀬、平野両氏の紹介の後、宮崎前会長の乾杯の音頭で懇親の宴が開かれた。

今回は余興としてのカラオケに多くの会員が参加し、盛会な懇親会となった。

最後は恒例によりプロバスソングの大合唱の後、矢島新年度会長の挨拶で滞りなく懇親会が終了した。　　（例会記録　佐々木　正）

編集後記：
皆様に支えられて情報委員会の任務を終えることが出来しました。心からお礼申し上げます。

東京八王子プロバスクラブ
創立1995年10月18日

プロバスだより

第153号

2008年8月14日発行

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

編集・発行：情報委員会

2008～09年度テーマ　『学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて』

第153回　例会

・日時：平成20年7月10日（木）12:30～15:30
・場所：八王子エルシィ　３階
・出席者：67名　出席57名　出席率８５％

１．多村例会委員長の司会で開会
２．会食(12:30~13:00)
３．矢島会長挨拶

クラブ結成以来13年目の新しい年度を迎え、会員の総意と豊かな知識と経験を結集して、安全で快適なそして豊かで活力のある地域社会の実現のため、本年度の運営を進めてまいりたいと考えております。テーマは**「学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて」**と致します。　以下いくつかの基本的な事項について申し上げますので、会員皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い致します。

Ⅰ、組織の活性化に向けた取り組み。

（1）例会の活性化と会員研修の充実

例会の活性化と地域奉仕活動の充実を図るため、例会の場を活用し会員の地域に対する、より一層のご理解をいただくための、もろもろの課題について研修の機会を設けていきたいと考えております。

（2）新規会員の加入促進

新規会員の確保に当たっては、現状の会員構成を考慮して、当面女性会員の加入を重点的に行い、男女共同参画社会を目指したバランスの取れたクラブ運営の実現を図っていきたいと考えております。

（3）同好会活動の促進

会員相互の理解と親睦を図り、クラブ活動の円滑な進行を図るためにも、同好会活動を促進していきたいと考えております。

Ⅱ、地域社会の活性化に向けた奉仕活動の取り組み

（1）生涯学習サロンの内容の充実

生涯学習サロンの充実を図るため、新たな話し手会員の参加を求めるとともに、新しい講座の開設を図るなど、参加者の要望にこたえられるような魅力ある講座の構成や運営を図っていきたいと考えております。又、新規参加者の確保に向けて「一日体験参加」なども検討していきたいと考えております。

（2）地域コミュニティ活動への参加

地域団体や住民が一体となって開催する、『いちょう祭』や『市民健康フェスタ』などには積極的に参加し、地域活動団体との交流や情報交換を通じて、プロバスクラブとしての地域活動に対する発信の機会なども増やしていきたいと考えております。

（3）他のプロバスクラブとの交流

近隣PCとの交流の機会を増やすとともに、関東ブロック交流会の第二回開催に向けて、ホストクラブとして充実した内容の交流を図っていきたいと考えております。

以上今年度の大きな課題について話をさせていただきました。

４．臨時総会

多村例会委員長より臨時総会開催の宣言があり、恒例により矢島会長が議長に選出されました。

議長は、書記に東山栄会員、議事録署名人に浅川文夫会員と竹内賢治会員を指名し審議に入りました。

１）前年度決算報告

第1号議案　前年度一般会計決算書
第2号議案　同活動準備金特別会計決算書
第3号議案　12回生涯学習ｻﾛﾝ特別会計決算書

上記3議案は関連しますので一括審議することにし、前年度執行部の山崎幹事より資料をもとに説明がありました。

監査報告

それらの監査結果について、松尾監事から相違がないという報告があり、了承されました。

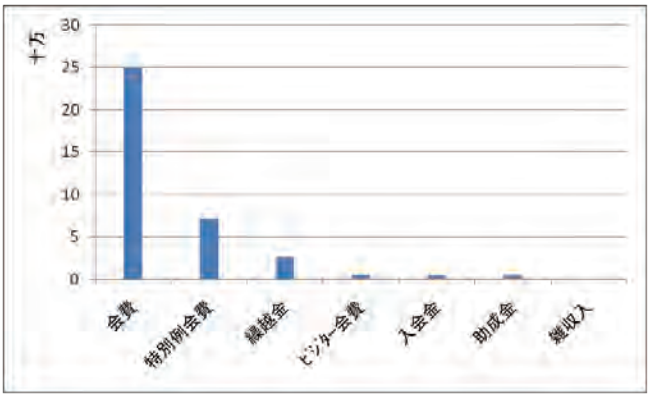
2008/7ー2009/6が正式の年度表示ですが、
新年度、今年度で表示します

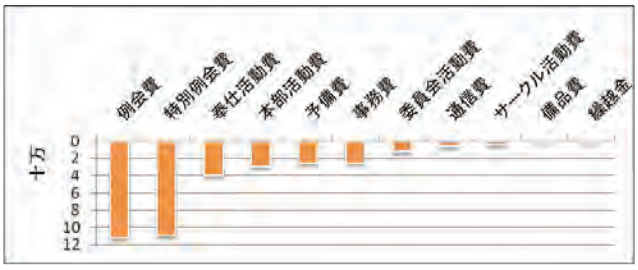
その他、質問・意見も無く、上記3議案について会員に諮ったところ賛成多数で承認され、原案通り決定しました。

（2）第4号議案　新年度一般会計予算書（案）と第５号議案　活動準備資金特別会計予算書（案）につき一括審議することで、新執行部の矢崎幹事より、資料に基づき説明がありました。その後、議長がこの議案につき会員に諮ったところ、賛成多数で承認され、原案通り決定しました。　（予算案下図参照）

以上を持ちまして臨時総会は全て終了しました。

新年度予算案　グラフ





５．ご来賓の紹介と挨拶

東京八王子南ロータリークラブ会長の平野一男様と幹事の藤原仁様の紹介

平野会長のご挨拶

東京八王子プロバスクラブ会員の中には奇遇とも言えるような方や、お世話になった方々など沢山おりまして、自クラブに来ているような親しみがありますというお話をされました。また、2008～09年度の会長標語、地球温暖化ストップ　『環境保全で明るい街づくり』の話もしていただきました。ありがとうございました。

また、矢島会長より、平野会長から当プロバスクラブへ助成金5万円が贈られたことに対する御礼を述べられました。

６．幹事報告（矢崎幹事）

①会員動向　現在71名（休会4名）実働67名

②上半期の会費と活動準備資金徴収のお礼

③今年度の各委員会構成メンバーの説明

④今期より名刺の肩書について説明

⑤青森（六ヶ所村他）研修について概略説明。

７．新年度新委員長の活動方針

◇情報委員（長谷川委員長）

会長からお話がありましたように今期のテーマは、学びと発信が一つのキーワードになっております。学びとは学習したことだけでなく、感動したこと、発見したこと、創作したことなどたくさんあります。それを人に伝える喜びが発信でもあると思います。当委員会が毎月発行しております『プロバスだより』は、身近な発信の場ですから、大いに活用して、会員の皆様に積極的な発信をしてください。『充実した情報を、広く正しく速やかに伝達する』を方針としました。情報委員一丸となって1年間取り組みますのでよろしくお願いいたします。

◇会員委員会（下田委員長）

本年度のメインテーマを『盤石な組織と更なる発展を目指して』サブとして、相応しい会員候補者の発掘とします。会員委員会の主な活動は会員の増強にあります。近年の会員の動向を見ますと、過去6年間で24名もの退会者がいる。平均すると年４名が退会しているので本年度は最低現状維持の71名を目標に4名以上の新会員の入会を目指します。

会長の方針もありましたように女性の会員の増強も図っていきたいと思います。全員で取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

◇研修委員会（橋本委員長）

会長方針に沿い、会員の知的ニーズの充足と趣味の取得や交流を図っていくことを会の運営方針としていきます。

研修委員会の仕事の一つのキーに野外研修がありますが11月を候補に進めていきます。

新しい試みとしまして、例会の場を利用しまして、2回ほ

ど外部から講師を招いて地域の活性化などの学習や会員の地域に向けた発信の機会を増やしてくことに取り組んでいきたいと考えております。
卓話ですが、会員の自己紹介の意味もあるので、今まで活動してきた分野、体験してきたこと、あるいは趣味などから話題を選んで頂き、30分ほどのお話をお願いすることになります。
本年一年皆様と一緒に頑張っていきますのでよろしくお願いたします。

◇地域奉仕委員会（澤渡委員長）

冒頭、心境を申すなら、重いお役を頂戴いたしまして、戦々恐々としております。一年、微力ではございますが努めてまいりたいと思います。地域奉仕を担当するにあたり、未来志向型クラブを目指していくビジョンを掲げたいと思います。また、三つのキーワードを考えてみました。一つは『親睦』であり、二つは『奉仕』、三つ目は、少しずつ壊しながら、新たに創り上げる『創造』の言葉を心に刻みながら考えていきたいと思います。
具体的活動目標としては、
1）いきいきとした委員会活動
風通しのよい、明るい委員会を目指していきます。
2）生涯学習サロン　内容の充実
問題の一つに一般会員数の伸び悩み、受講率の低迷の傾向があります。この原因を探り、この壁を乗り越えていきたいと思います。
3）生涯学習サロン　業務・経費の効率化・簡素化・改善努力をしていきたいと思い、委員会の中に業務効率化改善委員会をつくり取り組んでいきたい。
4）いちょう祭への参加
5）2~3年先を見据えた地域奉仕活動のあり方の模索をしていきたいと思います。地域奉仕として、生涯学習サロンだけで良いのか、これだけの知識と経験と情熱を持っているクラブですので何か他に奉仕の方法がないのかなどアイディアに終わらず行動力を伴う意識をもって取り組んでいきたいと思います。皆様のお力をお借りして少しでもよりよい地域活働が出来ればと思います。

◇例会委員会（多村委員長）

例会は、会員相互の意思疎通を図るため、大事な場であるので、
1）交流を深め、楽しい例会とする。
2）無断欠席を排し無駄のない例会を運営することに全員で取り組み、会員が気持ちよく参加できる雰囲気を作っていきたいと思います。
活動方針としましては、
1）当委員会の各人の役割分担を決め、全員が協力して、仲間意識を醸成していきます。
2）例会の強化をするため、年に1~2回、例会の時間を延長して研修委員会が実施する全員学習をサポートして活発な討論の場を作っていきたいと思います。
本日の出席率は、実働数67人、内出席者が57名ですので、出席率は８５％です。

８．同好会報告

◆　**写真同好会**（矢島会長）

7月24日（木曜日）『**古代蓮の里と山百合の森**』を訪ねる撮影会が行われました。9月例会時には、写真展示もしますので、参加者はA4サイズで2枚提出ください。

◆　**お茶の会**（中野会員）

先ほど立川会員からも報告がありましたように、ドイツの音楽団員*1に対しての『**お茶をもてなす会**』を進めております。8月28日（木）午後1時から3時までエルシー５階で行われます。協力お願いします。**お茶の会は服装規定あり。詳細は中野会員へ**
日独交流演奏会は、8月31日午後2時から八王子市民会館で開催されます。

◆　**歴史の会**（荒委員）

『歴史の会』の会長を澤渡さんから私が引き受けることになりました。よろしくお願いします。7月11日からの**六ヶ所再処理工場・三内丸山遺跡等研修委員会並びに歴史の会の合同旅行**について説明がありました。

◆　**IT塾（矢崎幹事）**

8月は4日（月）・18日（月）に開催されます。暑いけれどがんばりましょう。

９．各委員会打ち合わせ

（1時間ほど各委員会ごと打ち合わせをする）

１０．プロバスソング斉唱

１１．閉会　（下山副会長）

臨時総会ならびに新しい年度の最初の例会が皆様の協力を得て滞りなく終わることができました。ありがとうございました。健康に留意して8月も元気に集まりましょう。

*1：（ザクセン交響楽団ケムニッツ）

六ヶ所村訪問記（H20.7.11）

・原子燃料サイクル施設見学

六ヶ所原燃ＰＲセンターの３階で、眼前に広がる原子燃料サイクル施設と国の石油備蓄基地、それに周囲に林立する風力発電設備を望遠すると、第三次オイルショックが進行している現在、エネルギー問題がまさに身近に迫ってきているとの思いを実感する。

全国の原子力発電所で発生する使用済燃料を集めて再処理し、生成されたプルトニウムにウランを混ぜて、混合酸化物(ＭＯＸ)燃料を作る再処理工場が稼動間近だ。2010年には16～18基の原子力発電所でMOX燃料を使う「プルサーマル」が計画されている。この使用済燃料をリサイクルして使う「原子燃料サイクル」が円滑にまわり、さらに福井県の高速増殖炉「もんじゅ」の研究開発が進むならば、輸入依存度の高いわが国において、エネルギーの長期安定確保が可能になるに違いない。

ＰＲセンターで概要説明を受けた後、時間の関係で、バスに乗って、濃縮工場の外観、低レベル放射性廃棄物処分施設などを見学した後、本命の再処理工場では、海外から返還された高レベル廃棄物(ガラス固化体)の貯蔵施設や工場全体の中枢である中央制御室の中に入って、現場の状況を直接目にした。素人の我々には、詳細は理解出来ないものの、この工場が、人体に影響を及ぼすような放射線は絶対外部に放出しないという安全設計の思想に基づいて設計され、運転されるという基本的な考え方は十分理解できたように思う。

・六ヶ所プロバスクラブとの交流

原子燃料サイクル施設を見学した後、この六ヶ所村の温泉施設「ろっかぽっか」で４月に設立されたばかりの「六ヶ所プロバスクラブ」の皆さんと、昼食を共にしながら交流をさせて頂いた。　**（写真右下）佐々木正会員提供**

宮崎浩平前会長は、「私共の歴史の会が三内丸山遺跡の研修旅行を企画したところ、佐々木正会員から折角の機会なので、六ヶ所村も訪問してはとの提案があり、それは良いね、原子力の利用に関していろいろ意見はあるが、見ないで意見を云うのは如何なものかと思い大勢で伺った」と来意を述べる。

村の開発に多大な貢献をされた元村長で、六ヶ所ＰＣ会長の土田浩氏は、「六ヶ所村は、かつては何の変哲もない村で、農業と漁業だけの田舎でした。そこにむつ小川原開発という国家プロジェクトの中で、国の石油備蓄基地を誘致し、その後、皆さんがご覧になった原子燃料サイクル施設が建設され、また風力発電設備をつくるなど、エネルギーと深い関わりのある村に変わりつつあり、さらに現在では、国際熱核融合実験炉(ITER)関連施設の建設準備も始められている」と現況を紹介。「原子力は、広島、長崎の原爆の影響を引きずって、一般に、危険なもの、怖いものというイメージがあるが、村内の多くの地点で環境モニタリング（放射線の測定）を行っており、国の基準よりも十分に低いデータが得られています。また村の若い人多数がこのことをよく承知して原燃施設で働いている」ことなど、村民サイドから見た施設の安全確保に対する考え方について説明があった。

原子力エネルギーの問題については、「多くの方々は、わが国ではこれから原子力に依存しなければエネルギー確保がままならないと判っていながら、誰かが、何処かで、何とかするだろうと考え、都会の方々は、どこか田舎の危なくない処でやってほしいと思っているのが本音でしょう」「高レベル処分地の選定など何とかするには、地域と事業者とが一体となって知恵を出し合い、より強固な信頼関係を築くことが大切です」「需要地の方々も生産地、立地地域の思いをもっと考えていただければ…」と、言外に長い間のご苦労を語る。

将来への想いは「いずれは日本ばかりでなくアジアの国々に、原子力や核融合の技術で主導的な役割を果たせる地域にしたい。海外からの技術者を養成する学校、大学などをつくって、多くの人の集まる、地球規模で役に立つような村にしたい」と夢を語っていただいた。

立川冨美代全日本プロバス協議会副会長からは、六ヶ所プロバスクラブ創立のお祝いが述べられ、クラブの活動は、人数の多い少ないではなく、プロバスの精神を守りながら、地域に密着した活動が大切であり、末永く交流させていただきたいとの挨拶があった。矢島一雄会長からは、八王子ＰＣの活動状況を今年13回目になる生涯学習サロンの内容を中心にご紹介させていただいた。　**（記録　荒　正勝）**

編集後記：新年度スタート、活動方針を主に載せました。荒会員より、六か所訪問記の寄稿をいただきました。皆様の発信をお待ちしています。　終

9月例会は9月11日12時30分です。ｸｰﾙﾋﾞｽﾞ

東京八王子プロバスクラブ
創立1995年10月18日

プロバスだより

第154号

2008年9月11日発行

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

編集・発行：情報委員会

2008～09年度テーマ　『学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて』

第154回　例会

・日時：平成20年8月14日（木）12:30～15:30
・場所：八王子エルシィ　3階
・出席者：**出席58名　出席率86.6％**
・ご来賓：ございません。

１．多村例会委員長の司会で開会
２．会食(12:30~13:00)　天ざる
３．矢島会長挨拶

立秋も過ぎ暦の上では秋でございますが、相変わらず毎日茹だる様な暑さの中で、8月例会に大勢の会員の方に参加いただきありがとうございました。特に今月はお盆の時期と重なりご迷惑をお掛けした方がおられるかと思いますがどうぞご容赦を願います。7月の定時総会も無事終わりまして、早いものでひと月が経ちました。各委員会ごとの恒例の懇親会も終わりまして、新年度の活動が開始されました。プロバスだよりも今年度からカラー刷りになりましたように、各委員会も計画に沿って様々なプランが協議されていますので、近いうちに皆様にお図りすることが出来ると思います。

さて話は、北京オリンピックになりますが、八王子出身や八王子にある大学を含めますと14人の方々がオリンピックに参加しております。その中の一人の中村美里さんはオリンピックに初めて参加し銅メダルをもらいました。普段でも暑い八王子の夏がこのニュースが駆け巡ると更にヒートアップしたのではないかと思います。また、男子の柔道や競泳の前回の金メダリスト達が、重圧にもめげず、故障やスランプを克服して2連覇を果たす素晴らしい活躍がありました。　私もテレビ観戦の中で久しぶりに感動をさせていただきました。まだまだ日本選手の素晴らしい活躍が続くものと思います。暫くはテレビの前から離れられないと思います。何もできませんが、せめてテレビの前で大きな声で応援をしたいと思っております。暑さもしばらく続くものと思っています。会員の皆様には、十分に健康に留意していただきまして9月の例会には元気でお集まりください。

４．議事

（１）幹事報告（矢崎幹事）

1.　会員動向
会員71名　（内4名休会）実働数67名

2.　西ロータリークラブから卓話の要請があり、調整中です

3.　南ロータリークラブから8月20日の例会時に、市役所から職員による、八王子南口開発状況、高尾周辺の開発等につき卓話がある案内です。出席希望は連絡を。

（２）各委員会報告

◆情報委員会（長谷川委員長）
『プロバスだより』この形で1年継続します。カラー刷りですので、いろいろ発信を。

◆会員委員会(下田委員長)
特に報告することはございません。

◆研修委員会（橋本委員長）
11月の野外研修は、委員会で検討した結果、お台場にある“科学館巡り”としまして、午前中は【船の科学館】午後は【日本科学未来館】を候補に検討しています。9月例会時に申し込み、10月例会に会費徴収の予定です。

◆地域奉仕委員会（澤渡委員長）
生涯学習サロンのｱﾝｹｰﾄ提出のお願い。

◆例会委員会（多村委員長）
今日の参加者は58名で出席率は86.6%です。

訃報

当クラブ会員**野口正久様**

8月14日　15時17分ご逝去
享年86歳
告別式：8月17日　楢原斎場

略歴：地方史研究家として著名。平成18年11月永年の地域文化振興に尽力した功績に対し、文部科学大臣表彰を受けられました。八王子市文化財審議委員・八王子市立中学校長会会長歴任

（３）同好会報告

○ゴルフ同好会（小林貞男代表）
9月の12日　予定通り開催します。

○お茶の会（中野会員）
8月26日ドイツオーケストラメンバーにお茶の接待の説明あり。（既報）

○囲碁の会　（矢崎会員）
10月17日～18日の予定で行われます。

○写真同好会　（矢島会長）
10月6~7日の予定で　乗鞍高原紅葉撮影会を実施します。

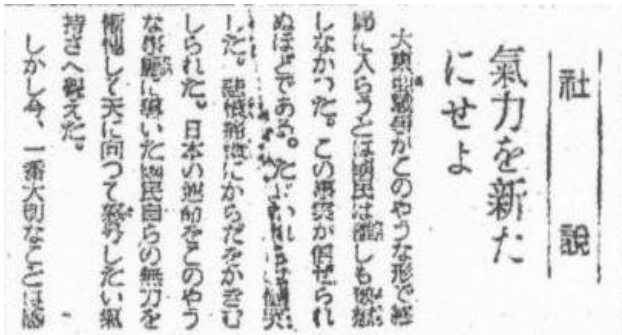
○歴史の会（荒会員）
12回会合は、『中世の八王子』と題して、9月16日にエルシーで開催です。講師は会員でもある大野講師にお願いしています。

○IT塾（矢崎会員）
毎月第一/第三月曜日開催ですので、奮って御参加ください。

４．その他

渋谷会員（写真）　8月15日の終戦にあたって、1945年8月16日付け『読売報知新聞』社説から、渋谷会員の知人であり、八王子と縁のある執筆者故菱山辰一氏（当時論説委員）について紹介、45歳の若さで、敗戦の混乱の中で社説としてこれだけ知性のある論壇に対して畏敬を表わすとの話がありました。また、社説の部分をご子息の菱山郁郎氏が手書きで、全て書き換えた文を紹介し内容について説明がありました。

（編注：マイクロフイルムに保存されている当時の新聞にも折り目が入り、判読不明になっておりますので、復元された手書きの文は貴重だと思います）



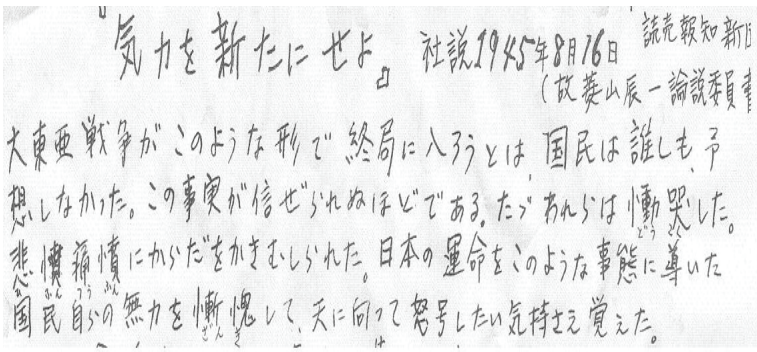
社　説

氣力を新たにせよ

大東亜戦争がこのやうな形で終局に入らうとは国民は誰しも予想しなかつた。この事実が信ぜられぬほどである。たゞわれらは慟哭した。悲憤痛憤にからだをかきむしられた。日本の運命をこのような事態に導いた国民自らの無力を慚愧して天に向つて怒号したい気持さへ覚えた。

しかしながら、一番大切なことは

読売報知新聞（1945.8.16　社説抜粋）



『気力を新たにせよ』　社説1945年8月16日　読売報知新聞
（故菱山辰一論説委員）

大東亜戦争がこのような形で終局に入ろうとは国民は誰しも予想しなかった。この事実が信ぜられぬほどである。たゞわれらは慟哭した。悲憤痛憤にからだをかきむしられた。日本の運命をこのような事態に導いた国民自分の無力を慚愧して天に向って怒号したい気持さえ覚えた。

社説　復元手書き文（抜粋）　菱山郁郎氏）

５．卓話

『歩く、５街道』
山元哲夫会員（写真）

ウオーキングの利点

①心臓を強化する

心臓は動脈と静脈がそれぞれの役目を果たし、全身に血液を送り出しています。動脈が酸素を多く含んだ血液を全身に送り出し、静脈が全身から古い血液を送り出す役目をしています。しかし重力に逆らつて、全身からの血液を引き上げるのは心臓にかなりの負担がかかります。これを助ける役目を果たすのが、足のポンプ機能〝ミルキングアクション〟です。具体的に言うと、筋肉の伸び縮みによる血管の押し上げです。筋肉が血管を強く押すことによって血液を心臓へと押し上げてくれます。心臓の負担を軽減するのです。

②骨を強化する

人間の仕組みとは不思議なもので、自分が行なった生活によって体が変化してきます。骨に刺激を与えれば、その刺激に耐えられるように骨を強化する変化が自然と発生します。又、ウオーキング中、日光に当たることで、体内にビタミンDが作られます。ビタミンDはカルシュウムの吸収を助ける役目を果たすので、刺激を与えた骨にさらに良い効果を与えます。

③脳をきたえストレスを解消する

ウオーキングは有酸素運動(エアロビクス)です。脳に新鮮な酸素を取り入れ、血液量の増加を図り、脳を活発にしてくれます。外の空気を浴びて、軽い運動をすることでリラックスした気分になり、ストレスも緩和されます。

五街道ウオークのすすめ

五街道とはそれぞれ、東海道　中山道（なかせんどう）　甲州

道中　奥州道中　日光道中です。（下図参照）これらの街道は、それこそ太古から自然発生的に形造られてきましたが、慶長5年(1600)関が原の戦いに勝利した徳川家康は天下人となり、その基盤を確保する為に、翌年東海道の整備に着手、その翌年中山道(当初、東海道に対して東山道と呼ばれた)と逐次整備に取り掛かりました。整備とは、街道に宿場を正式に設けたのです。無論、1里ごとの１里塚、松並木の植栽、石畳の敷設なども。大名や公卿が宿泊する本陣（ほんじん）、それに順ずる脇本陣（わきほんじん）、公用でない武士や庶民が宿泊する旅籠（はたご）、格安な木賃宿（きちんやど）の宿泊施設が集中していました。　宿場の本来的機能を理解するには街道を鉄道と見れば簡単です。宿場は駅なのです。つまり情報の伝達業務と物資の流通が最重要業務だったのです。家康が天下掌握の要と考えたのでしょう。この業務を担当したのが問屋（といや）です。隣の駅から送られてきた書簡や荷を次宿の問屋に送り届けることです。これを宿駅制度といいます。つまり、街道という鉄道を設け、宿場という駅を設け、貨車と郵便列車を走らせたのです。まさしく今日の物流システムとインターネットに相当するものです。そして幕府は、これら五街道を各藩に任せず、直轄、つまり国道扱いとし国土交通省ならぬ道中奉行の直接支配としたのです。

参勤交代制度、庶民の物見遊山の旅の普及により各宿場の宿泊設備が次第に充実しました

　これがウオーキングのフィールド五街道なのです。（終り）

●東海道：492km　●中山道：505km
●甲州道中:208km　●日光道中：208km
●奥州道中：85km

６．プロバスソング斉唱

７．閉会　（矢崎幹事代）

　下山副会長（欠席）に代わりまして、ご挨拶いたします。今日は健康の話がでました。例会委員長からは、よく睡眠を取れ、卓話の山元さんは、よく歩け、と云われました。

　私からは、よく水を飲め　と付け加えます。加齢により、乾きの検知能力が衰えるそうです。よく水を補給して、暑い夏を乗り越え、9月の例会には元気で集まりましょう

（例会終了）　（記録：松尾情報委員）

投稿

154の野ばらの歌

平原俊彦会員

「野ばらの歌」といえば「童は見たり、野中のばら・・」という、かのゲーテが詩を作り、シューベルト、ウェルナーが曲をつけた二つの「野ばら」がわが国ばかりではなく、世界中で有名であるが、しかしドイツの研究家モーザー博士(名ソプラノ歌手エッダ・モーザーの父君)の研究によるとこのゲーテの詩による野ばらはヨーロッパ中心に世界で実に１０数カ国１５４曲あるというからおどろきである。その中にはベートーベン、シューマン、ブラームス、メンデルスゾーンなどのいわゆる巨匠ばかりでなく、オペレッタの王様レハールなどなど百数十人の作曲家がてがけている。作曲家の国もドイツ、オーストリーはもとより、イギリス、スイス、フランス、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ハンガリー、ポーランド、アルメニアなどなど多岐にわたっている。

　何故この詩が１００人以上もの多くの作曲家を魅了したのか、それは此の曲が、ゲーテの一時代前の子供のための〔エルグ学校唱歌集〕のやさしさ、単純さ、を参考にして、ゲーテが万人に楽しめる作品を書いたからに他ならない。ブラームス、メンデルスゾーンなどの曲はこの考えに沿い大変美しく楽しい曲にしあげているが、ベートーベンはこの詩の作曲に失敗、未完成に終わった。それはこの詩のもっている楽しさ、愛らしさと、ベートーベンの作曲時の人生に対する苦悩の追求というテーマとのアンバランスとにあったのではないかと考えられる。

　現在日本ではこの[野ばら集]の９１曲の楽譜が出版されている。中でもそのうち３０曲ほどは美しい景色などを入れた楽しいビデオになっている。又の機会に見て頂きたいものだ。

編注) だより154号の記念投稿ではなく、素敵な偶然でした。

三内丸山遺跡・縄文最大の集落訪問

（H20年7月11日）
歴史の会会長　荒正勝

青森湾の沖から丸木舟の集団が戻ってくる。今日はブリの大漁だ。女子供を含めて集落総出で水揚げを手伝い、魚を作業場に運び、共同で乾燥や塩漬けの作業を始める。作業場と想定される建物は巾約10m、長さ32mの大型竪穴住居で復元展示されている。

釣りの得意な人達は体長１ｍものマダイを何本も釣上げて戻ってくる。ここ三内丸山遺跡からは魚の骨が大量に出土していて、サメの骨が43％と一番多く、次いでブリの25％、タイが８％、ちなみにマグロは１％以下。また動物性食料ではムササビ39％、ノウサギ36％で、シカやイノシシは合わせて5％。一方、毎日の食卓ではクリやクルミが大量に料理されていた。ドングリ類やトチの実はほとんど見当たらない。集落の東側や南東には人為的に作られた広大なクリ林が想定されている。植物性食料を地下に貯蔵する貯蔵穴も多数発掘され、さらに貯蔵に適した壷型土器も出土。食料を保管する高床式倉庫も多数ある。

住居は、６丈1間ほどの竪穴住居が600棟ばかり発掘されていて、建て替え、拡張を繰り返した跡が見える。集落が1500年続いた証だ。さらに発掘が進めば住居跡は3000棟になるという。

集落の西北端で径２ｍ、深さ２ｍの柱穴６本と、穴底に径１ｍもの柱根が発見された。柱はクリ材で根元の太さから、高さ１５～１６ｍの建物が想定され、一躍この遺跡の名声を高めた。ではこの集落の住人は最盛期に何人位いたのか。これには50人から500人と諸説ある。

写真ー１

大林組は前記建物の地質調査を行い、柱底の土にかかった荷重から柱の重さを６．５ｔ、長さを１６．５ｍと計算し、この柱を６本立て、六本柱建物（写真１）として組み上げるのに必要な稼動人員と後援の人を合計で200人と見積った。この結果集落の総人口を500人と推定した。

いま三内丸山の象徴的な建物として復元研究未了の状態で展示されているが、見学者を驚嘆させるには十分である。この遺跡はＢＣ3500～2000年まで定住生活が営まれていた縄文時代最大級の集落跡として国の特別史跡になっている。

青森は縄文のまほろば

三内丸山集落が栄えていた時期、気候は温暖化が進み、気温で+2度、海水面で２～６ｍ高く、海水は内陸深く進入していた。そのため縄文遺跡は、三内丸山を中心に海に沿った高台に分布、さらに日本海沿岸、太平洋側に遺跡は集中している。それぞれの遺跡から出土する黒曜石は北海道産から長野産まであり、ヒスイも糸魚川産が多数発見される。内陸の遺跡からはブリやサバの骨が多数出てきて、盛んな交易と技術交流のあったことが想像される。

<展示室で解説員の説明を聞くプロバス会員（写真-2　上）

六ヶ所村立郷土館のホームページを見ると、　縄文最古の1万2千年前の隆起線文土器（写真3）が紹介され、また縄文後期約４千年前の縄文美子かめ棺と名づけられた棺が出土し、埋葬されていた人骨から１８～１９歳の女性像が復元され、我々に縄文美人と対面する機会を与えてくれている。歴史の会は美子像（写真4）を目前にして対面の機会を逸した。

写真3　隆起線文土器

写真4　縄文美子復元像

写真３，４は　六ヶ所村立郷土館提供です

（以上、文・写真　荒　正勝氏）

編集後記：
今月は多くの方から資料を頂きました。ありがとうございました。　配布された終戦翌日の「読売報知新聞」、虫眼鏡で一読を。
編集途中で、野口正久様の訃報が入りました。謹んで、ご冥福をお祈りします。

次回１０月例会は１０月９日12時30分です。
服　装　規　定　　ｸｰﾙﾋﾞｽは終わりました。

東京八王子プロバスクラブ
創立1995年10月18日

プロバスだより

第155号

2008年10月9日発行

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

編集・発行：情報委員会

2008～09年度テーマ　『学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて』

第155回　例会

・日時：平成20年9月11日（木）12:30～15:30
・場所：八王子エルシィ　３階
・出席者：**出席60名　出席率88.2％**
・ご来賓：ございません。

１．多村例会委員長の司会で開会

２００８年新執行部がスタートして、３回目の１５５回９月度例会を始めさせていただきます。

先ず開会にあたって、さる８月１４日享年８６歳で亡くなられたプロバス第３代会長、故野口正久氏ご冥福を祈り、黙とうをささげます。

黙禱

黙とうを捧げるプロバス会員

在りし野口氏　ご友人提供

２．会食(12:30~13:00)　　洋食

（サラダ・ハンバーグステーキ・ライス・デザート）

３．矢島会長挨拶

今年の記録的な暑さもようやく峠を越えたらしく、朝晩はだいぶしのぎやすくなりました。今月も大勢の会員の方々に元気に例会に出席いただきまして、大変ありがとうございます。先ほど、多村例会委員長から話がありましたように、プロバスクラブの結成当時からのメンバーのお一人で、平成１０年度には会長を勤められた野口正久会員が８月１４日、病のためお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、本年度の運営方針の一つであります、例会の場を利用した地域研修開催の件ですが、その後いろいろ検討を重ねてまいりましたが、話し手の都合や例会の開催条件から、本年度中の例会での同時開催が困難な状況となりました。つきましては、後ほど橋本研修委員長から提案をいたしますが、研修会単独での開催を考えておりますので、何かとお忙しいこととは思いますが、会員皆様のご理解とご協力をいただいて、多くの方々が参加されますようにお願いいたします。

また、８月２８日には、立川会員が所属する八王子フィルハーモニー管弦楽団がドイツのザクセン交響楽団ケムニッツ管弦楽団を招聘しての合同演奏会の後、日独文化交流の一環として、私どものお茶の会のメンバー方々がお手前で接待して頂きまして、大変感謝されたそうでございます。お忙しいなかお茶の会のみなさまには大変ご苦労様でした。

４．ご来賓：本日はございません

５．新入会員紹介・挨拶

紹介者　杉山会員（写真）

戸谷修丈（トヤ・ノブタケ）氏を紹介いたします。戸谷さんは現役終了後八王子地区の保護司会の副会長を務めております。罪を犯した人を更生、社会復帰させるため、保護司の力を重点的に活用していく国の方針で保護司の社会的地位はさらに重くなっていきます。我がプロバスクラブにかかる一員を加えようというのが紹介した所以であります。今回の推薦者は私と河村会員との共同推薦です。

戸谷修丈氏入会挨拶（写真）

民間ボランティアとして活動しています。不幸にして罪を犯したり、非行に走った人の一日も早い社会復帰を願って、２１年間奉仕してきました。よろしくお願いいたします。

履歴：昭和１２年八王子に生まれ八王子育ちの土地っ子。現在八王子西寺方町に住居。
平成１０年市役所定年退職、その間環境、社会教育の両部長等歴任、現職：八王子地区保護司会福会長をはじめ法務省管轄組織の役員等につく。

趣味：歴史　民族学　ハイキング

黙とう中は照明を消しました。

６．議事

（１）幹事報告(矢崎幹事)

１．来月は特別勉強会が開かれます。後ほど橋本研修委員長から説明があります。
２．西ロータリークラブから、わがプロバスクラブに卓話の講師派遣要請がありました。
講師として浅川会員にご足労願うことになりました。演題は、環境問題　についてです。

（２）各委員会報告

例会委員会（岡本副委員長）

本日の出席数は今日入会の戸谷さんを入れて60名、在籍者数68名で出席率は88.2%です。

情報委員会（長谷川委員長）

平原さんの投稿　**154**の野ばら　は700字でおよそプロバスだより半ページ、荒会員の投稿が1200字で写真を含め約1ページとなります。投稿の目安にしてください。写真も忘れずに。

会員委員会（下田委員長）

8月14日に野口会員がご逝去されまして、会員数は70名になりましたが、本日、戸谷新会員が加わりましたので、総勢71名を維持することができました。従いまして、現状は、実働数68名、休会3名（石井・石田・鶴田各会員）で合計71名となります。

研修委員会（橋本委員長）

①　特別勉強日のお知らせ

日時：　10月23日第4木曜日　13:30~16：00
場所：　エルシィ
講師：　峯尾常雄氏（八王子市役所市民活動推進部）
演題：　八王子の街づくり（仮題）

②　野外研修のご案内（吉田副委員長）

八王子→お台場→船の科学館→昼食（ﾚｽﾄﾗﾝ海王）→日本科学未来館→H 日航東京→お台場出発→八王子のコースです。
11月13日（木）朝7時45分　JR八王子たましん前集合です。

地域奉仕委員会（澤渡委員長）

１．先般お渡しした、学習サロンへのアンケートは回収率６７％で、45通ありました。
２．会員による講師引き受け
20名を超す応募がありました。話題性・新鮮さ・面白さ・わかりやすさ等の観点から16講座を選びたい。
３．野外サロンの候補地
近場でゆっくり・女性が親しみやすい所の2点で検討中
４．今後の運営方針
テーマの内容・仕組み・参加費・組織論を検討する。
５．開講式・閉講式
開講式は骨太のもの
閉講式は親しみやすいもの　を目指します。

（３）同好会報告

○　ゴルフ同好会（小林貞男代表）

第１５回プロバスゴルフクラブ結果

１．開催日：平成20年9月12日
２．開催場所：GMG八王子ゴルフ場
（　東コース→西コース　）
３．参加人員：３組　１２名

久々に晴天に恵まれ楽しいゴルフができました。　入賞できなかった方々も、皆好スコアー続出でハイレベルコンペとなりました。

成績	氏名	G	H	ネット
優勝	矢島一雄	91	20.4	70.6
準優勝	杉山友一	78	6.0	72.0
第３位	米林伸恭	98	24.0	74.0

○　お茶の会（中野会員）

～ｻﾞｸｾﾝ交響楽団ｹﾑﾆｯﾂを迎えて～

日独交流演奏会実行委員会（村内道昌委員長）より、八王子プロバスクラブへ楽団の４０余人に対し、日本の伝統ある茶を接待してほしいとの依頼があり、８月２８日エルシイにて、

お茶のもてなしを実施しました。立川会員より司会の近藤泰雲会員の紹介があり、楽団の方々にお茶を点て、もてなしました。団員より、初めてのお茶を手にして、次々と質問があり、司会の近藤会員より通訳を介して詳しく説明をされ、和やかなうち、終了し、先方からも大変喜ばれました。　最後に、団長よりお礼の言葉があり閉幕した。

（文・写真　お茶の会　中野義光　）

○　囲碁の会　（矢崎幹事）

10月17日～18日の予定で行われます。

○　写真同好会　（矢島会長）

10月7日（火）～8日（水）（一泊二日）の予定で　乗鞍高原紅葉撮影会を実施します。

7月の撮影会『古代蓮の里と山百合の森』撮影会の作品が会場に並べられました。どれもが傑作でした。その中から一枚選びました。

写真　下山副会長

○　歴史の会（荒会員）
日時：　9月16日　午前１０から１２時
場所：　エルシィ
講師：　大野聖二会員
演題：　『八王子の中世』

大野聖二先生

熱心に勉強する『歴史の会』のメンバー

鎌倉幕府成立の1185年から徳川連合軍が武田勢を破り安土城を築いた頃までの400年の八王子の歴史について、先生が最近出された小冊子『片倉城・廣園寺・高宰神社の謎を巡って』、他多数の資料を基に2時間ほど話されました。

○　IT塾（矢崎幹事）
毎月第一/第三月曜日開催ですので、奮って御参加ください。

（４）その他
・松尾会員
八王子フィルハーモニー合唱団を代表してお礼の言葉を申し上げます。日独交流演奏会への多数の出席ありがとうございました。またお茶の会への演奏会ドイツ側40名を招き、おもてなしを受けたことにつき感謝申し上げます。
・石田会員（病気休会中）からの手紙
例会資料送付への感謝と同封された終戦翌日の「読売報知新聞」を感慨深く読ませて頂いたお礼が述べられています。

・広瀬会員　人権擁護委員会の催し案内
町田市民ホール　10月4日　江戸のしあわせ
・久野会員　催し案内
八王子消化器病院ロビー　9月26日
コンサート　雅楽の夕べ

７．卓話

「マルコ・ポーロの東方見聞録」
中世ヨーロッパ社会に与えた影響について
話し手　土井俊雄

ポーロ一家の壮大な旅

今回の卓話は、13世紀のころヨーロッパから中国・上都（現在の北京）にいるフビライ・カーンに会うべく海路と陸路それも過酷な悪路や盗賊団をものともしないベネチア魂のポーロ一家の壮絶な旅のお話です。生涯学習サロン（昨年）にてお話させていただきました、「ジプシーの謎を追って」と同様、お話の域を出ないカテゴリーですが、興味をそそられる話です。この卓話のため、7～8冊の参考図書を、読みましたが、その基をなす初稿本が、24版もあり、写本に至っては殆ど数えきらない数に上るといわれております。従ってマルコ・ポーロが本当に行ったのか、見たのか、伝聞なのか、筆者であるルスティケロ（ポーロより口述筆記したといわれる）もその辺を吟味しながら記述したわけでないと思われるので、後々いろいろな研究者の格好の吟味対象になったのは、自然の成り行きと思われます。

当時のユーラシア・アジアの様子

13世紀頃の、ヨーロッパ・アジアを見ますと、中国はモンゴルに侵略され、チベットは吐蕃が治め、西方にオゴタイ、チャガタイ、イル、キプチャク各汗国があり、神聖ローマ帝国、ハンガリー王国、イタリアの北半分は教皇領、南半分がナポリ王国、ベネチアやジェノアはわずかな土地でも貿易で栄えていた。これら東西の間の、重大事はキリスト教と、イスラム教の対立です。両教は、聖地エルサレムに教祖の墓があり対立が絶えなく、十字軍の遠征により、コンスタンチノープル、エルサレムが戦場となった。

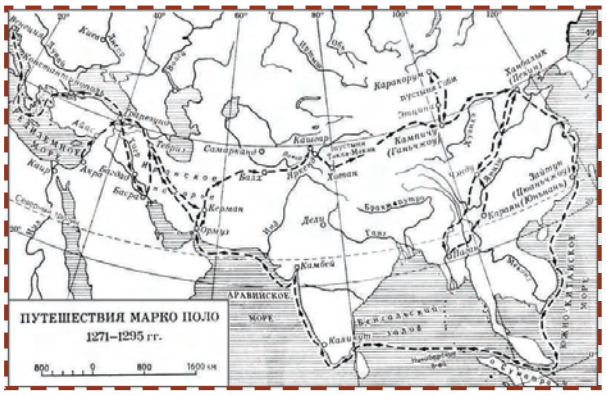
フビライ・ハーンに仕えたマルコ・ポーロ

マルコ・ポーロは、フビライ・ハーンのもとに、17年滞在した。ハーンはマルコの資質を愛でて側近に加えた。その間、ポーロは、帝国の部族長（多くは親戚同族）への使節に任じられ、各方面へと出かけていった。ポーロの報告は、各地の情勢を的確につかみ事細かに報告する内容は常にハーンを満足させた。

ポーロが感心したのは、元王朝の部族のまとめ方、駅伝制度、船や大きな建造物の製作技術、通貨の発行、火薬や航海術等を中国やサラセンより取り入れヨーロッパにもたらしたことであった。

ヨーロッパ中世社会に与えたポーロの影響

中世では、キリスト教による、暗黒政治（キリストの教義に背くことは、政治・文芸・科学・思想すべてにわたって排斥、弾圧を受けた）があったが、１４世紀にルネサンス、１６世紀に宗教改革が起こった。これらのもとになった考え方は、高度なサラセンや中国の文化、それに、１８世紀に花開いた、啓蒙運動の芽生えが、あったとも言われている。さて、この時代にヨーロッパ人が、苦しい旅を敢行したのは何故かという疑問がのこりますが、一つには、珍しい物産を手に入れるだけでなしに、当時キリスト教圏では、イスラムの脅威に対抗すべく、ローマ法王からの命令で、東方の蛮族（タタール）を教化しキリスト陣営に組み込めないだろうか、その探りの使者が、頻繁に送られていた。そのもとにはプレスター・ジョンの伝説もありました。ポーロが口述筆記させていた「東方見聞録」は、大航海時代の幕開けをつくったエンリケ航海王子により、ポルトガル語に翻訳されるとともに、コロンブスに渡され、その航海によりアメリカ大陸の発見につながった。またオーレル・スタインほか多くの探検家の冒険旅行を誘発します。アメリゴ・ベスプッチ、マゼラン、なども独自の航路を発見したのです。



マルコ・ポーロの主な行程　ウィキメディア・コモンズより

８．プロバスソング斉唱

９．閉会（下山副委員長）

八王子の将来をいかにするか、10月23日の特別勉強会に多数の参加を期待します。

（例会記録　平　情報委員）

野口正久元会長を悼み

大野聖二会員

当クラブの最長老であった野口正久さんが、８月１４日、急性骨髄性白血病で永眠されました、心からお悔やみ致します。昨年まではお元気で、特に今年の2月１９日には、六中時代の教え子であった澤渡会員のお世話を頂き、プロパスクラブの「歴史をさかなに語ろう会」で『通史八王子の江戸時代』のテーマで沢山の史料を駆使し、江戸時代の八王子を丹念にお話しいただきました。その後まもなく入退院を繰り返され、クラブも体会されていましたが、突然の訃報で惜別の思いを禁じ得ません。

野口さんは平成７年八王子プロバスクラブ設立の時入会されました。創立時３３名の会員でしたが、あらゆる意味で八王子にとって素晴らしい知識と教養をお持ちの人達によって構成され、初代会長を仰せつかった私は、重圧を感じながら、これらの人達を活用して、地域貢献できる期待に心がどよめきました。当初から例会、会員、研修、広報、地域奉仕の５つの委員会に編成し、委員会ごとに企画を立てて運営をしました。特に、地域市民への教養活動の推進を目指しましたが、初年度は当面の運営に追われ地域プログラムは難航していました。初代の役員は次年度も留任することになりましたが、この時、地域奉仕委員長に野口さんに就任いただき、研修委員長として生涯学習プログラムを検討中の田子委員長に協力していただくことになりました。野口さんは第六中学校の校長をされ中学校長会の会長として教育界をリードされ、さらに文化財保護委員や八王子千人同心旧交会会長として地域史を研究し、かたがた、千人同心が江戸時代開拓に赴いた縁で、苫小牧市や白糠町との友好にも尽力されました。この野口さんのご協力により、一層地域に密着した生涯学習サロン計画が実現し、多くの市民のご賛同を頂き、６０名を超える一般市民の参加を頂き、平成９年２月から、月２回、開講、開講式を含め６講座１６サロンの実施計画を持って第１回を実施することが出来ました。第２代藤野豊会長の後を継ぎ、第３代会長に就任され、引き続き生涯学習サロンを推進し、今日の基盤づくりに貢献されました。ここに、野口先生のご功績に感謝申し上げ、ご冥福を祈念いたします。

空き室を郷土史で満たす三代目

編集後記：今期の会長方針の一つに同好会活動の促進があります。今月号は同好会活動を大きく取り上げました。
大野会員（初代会長）から野口正久（第3代会長）を悼む　追悼文を頂きました。ありがとうございました。

来月例会は11月13日野外研修　7:45am　JR八王子たましん前